

「サマー・ドッグ」

(小学館コロコロ文庫『エスパー魔美』3巻)

佛教大学 社会福祉学部 3回生 前田達彦

〈はじめに〉おすすめの一話はエスパー魔美から「サマー・ドッグ」を紹介します。どの話も深みがあり一話だけを選ぶのはとても悩みましたが、悩みに悩んだ末この話に決めました。

まずはこの話のあらすじを簡単にまとめます。

『夏休み、佐倉家が借りた貸別荘へ訪れた高畑さん。魔美と共にスケッチに行くと野犬に襲われた猟師に出会い、捨てられ野生化した犬の群れが人間を襲っていることを知る。その群れの中に、同じく別荘に来ていた男の子（伸一くん）が昔飼っていた犬（チビ）がいることを知り、伸一くんは夜中に探しに行く。チビは伸一くんと共に過ごした日々を覚えており、襲うことなく甘える姿を見せる。しかしチビは仲間を見捨てることができず、群れに帰ってしまう。魔美は野犬たちが幸せに暮らせることを願うが、儂くも野犬たちは猟友会によって全滅する。そのことを魔美には知らせず、高畑さんは新聞を燃やす…』

あらすじなのに長いですね、すみません。飼っていたペットが飼えなくなったから野生に放す、興味本位で飼ったら予想以上に手間がかかるので捨てる……今回の話は別荘で情操教育のために飼っていたようですが、「生き物を飼う責任を放棄」という点では同じです。この作品が描かれたのが70年代後半ですから、あれから30年以上たった現在でも変わらない現状……悲しいものです。

夜中にチビを探しに出かけた伸一くんを追う途中、魔美たちは負傷した猟師のSOSをキャッチし、部分テレポートで輸血を行うが魔美は極度の貧血状態に……自己犠牲をものともしない優しさを持てる魔美は強き少女です。高畑さんだけでもテレポートで逃がそうとする魔美に対し、高畑さんは棒を持ち「まあみててよ。生まれてはじめてぼくは死にものぐるいになるぞ。」と立ち上がります。かっこいい……!!!高畑さんが暴力や悪に立ち向かう話はいくつかありますが、「死に物狂いになって立ち向かう」と言ったのはこの時のみです。

表立って意識はしてないでしょうが、魔美のために死に物狂いで立ち向かえるのは魔美が好きだから、愛があつてこそではないでしょうか……。

野犬に近づこうとする伸一くん「人間はみんな敵にしかみえないのよっ。」と訴える魔美。愛していた人間に捨てられた悲しみ、飢えに泣いた苦しみ、追い立てられた怒りと恐れ……飼い犬だった日々を覚えていたチビは伸一くんと暮らしたかつての日々を思いだし襲わずに甘えます。しかし、群れの仲間を見捨てられず群れに帰るチビ……。

翌日(数日後?)、猟友会により野犬が全滅したことを新聞で知りますが、高畑さんは燃やします。野犬の行方を心配する魔美に対し、高畑さんは本当の事を告げず物語は終わります。

……なんだかほとんどあらすじになってしまいました、すみません。

魔美・高畑さんの活躍はもちろんの事、この話は深いメッセージが込められています。ドラえもんでも「のら犬『イチ』の国」、「カムカムキャットフード」など捨て犬・猫が登場する話はいくつかありますが、ハッピーエンドで終わります。しかしこの『サマー・ドッグ』では野良犬は救われず……仮にチビだけ伸一くんと一緒に都会に帰っていたとしても、ハッピーエンドとは言えないでしょう。

最後のコマではウソをつくの嫌いな高畑さんが魔美には真実を隠します。

人間のエゴ、犬たちの感情、それでも忘れない絆、自己犠牲や立ち向かう勇気、ウソをつく勇気……F 先生が伝えたかったメッセージは何なのかを考えられるこの話、ぜひご一読ください。

